第15回　健康福祉研究会（報告と御礼）

テーマ「教員として働く卒業生から在校生へのﾒｯｾｰｼﾞ」

2021年2月 11 日(木)にコロナ禍でのリモート開催でしたが、在校生・卒業生・高校生合計59名の参加と、教員 21 名の参加をいただき健康福祉研究会を実施いたしました。

お忙しい中、遠方よりおいでいただきました4名の講師(卒業生)の皆様には心より感謝申し上げます。学生のみならず、教員も改めて教育の魅力ややりがいを伝えていただきました。4名の先生方の教育への情熱に心が熱くなる、有意義な2時間半を過ごすことができました。

特別支援教諭　及川千夏さん(H28 卒)
宮城県立船岡支援学校

経験に勝る財産なし。
学生にしかできない経験をしてください。

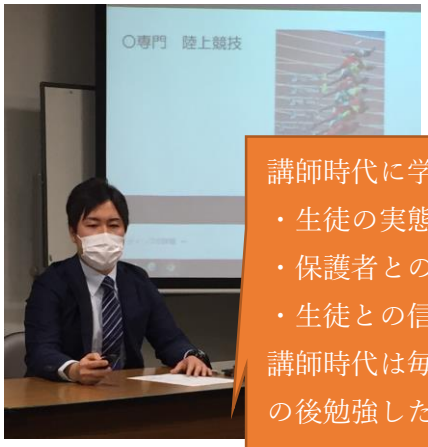
心がけていることは、周囲の先生方や保護者の皆さんとの関係づくり。保健体育の楽しさを感じてもらうこと。

養護教諭　天野貴文さん（H22 卒）
宮城県立気仙沼支援学校

男性養護教諭で困ったことはあまりない。
男でも女でも大事なのは人間性。

養護教諭で大事なことは「みたて」ができること
そして、新しい情報を学校全体へ伝えること。

保健体育教諭　結城健太さん(H24 卒)
宮城県農業高等学校



講師時代に学んだこと
・生徒の実態に合わせた指導
・保護者との協力体制
・生徒との信頼関係
講師時代は毎日 3～4 時間仕事の後勉強した。

教員の仕事でフットワークの軽さは大切な要素。
学生時代の経験は、必ず生きてくる。

福祉科教諭　四釜千尋さん(H27 卒)
宮城県登米総合産業高校

介護福祉士になりたいと思っていたが、介護福祉士を育てたいと思うようになった。

人生に無駄なことなんか何もない。
時間は平等です。一日を大切に過ごしてほしい

寄せられた感想

高校生Ｋさん
「いろいろな話を聞くことができ、多くの職業について知ることができました。ありがとうございました。仙台大学で学ぶことを楽しみにしています。」

卒業生Ｓさん
「私自身複数体制で養護教諭の講師をしていますが、天野先生が話されていたお互いが気持ちよく仕事のできる距離感、物事への対応するスピードが大事ということなど納得することがたくさんありました。
また、特別支援の指導内容は初めて聞くことばかりで勉強になりました。私も講師時代の経験を財産にできるよう学ぶ姿勢を忘れずに頑張ろうと思いました。」

3年生　M君
「今回の研究会に出席して印象に残っている事は、保健体育教師の先生と養護教諭の先生の話です。保健体育の先生の話で、合格した年の勉強に使ったノートの数です。20冊以上あり、一日3時間から4時間を毎日継続したらこれくらいの数になると言っていて自分も勉強を初めていますが、もっと合格するために勉強しなければならないと感じました。また、疑問に思っていた実技の練習についてですが、大学時代は専門の先生にお願いして行っていたことがわかりました。講師時代は学校が終わってから、体育館等を借り、工夫しながら行っていたことがわかりました。まずは一次の筆記の勉強が優先ですが二次試験に進んだ際は参考にして専門の先生に聞きに行きたいと思いました。
次に、養護教諭の先生の話を聞いて感じた事は男性だからと養護教諭になれないわけではないということです。実際に現場で働いていている人の話を聞いて、男性養護教諭だからこそできる事もありますし、女性の養護教諭の方と協力して生徒と接することが重要だということがわかりました。疑問に思っていた「なぜ、男性なのに養護教諭を目指したのか」という問いも、男性養護教諭の存在を知り、なりたいと思ったからと聞くことができ、意思の強さが重要だと思いました。
実際に働いている現場の声を聞くことができ今後に生かせる内容ばかりで参加して良かったと思いました。先生方も言っていたように大学生の時は一番時間があるので、時間を無駄にせずこれから頑張っていきたいと思います。」

コロナ感染予防のため会場で参加人数は最小にして実施

司会もカメラもビデオも４年生の補助で実施